

# マチュピチュ遺跡発見100周年

1911年、植民地時代初期のインカの拠点・ビルカバンバを探しにやってきた、アメリカ人歴史学者ハイラム・ビンガムによって、空中都市マチュピチュ遺跡が発見されてから、100年。

今もなお、発掘と復元が続けられ、1983年には、世界遺産に登録されました。最近では、ナスカの地上絵が新たに見つかり、注目を集めています。現在も謎に包まれた壮大な遺跡を感じてみませんか。



## ??世界遺産とは??

世界遺産とは、1972年のユネスコ総会で採択された「世界遺産条約」に基づいて、世界遺産リストに登録された遺跡や景色そして自然など、人類が共有すべき不動産（土地・建物・立木など）を言います。

## 「古代アンデス文明 不思議物語 インカ帝国のルーツを探る」

小野雅弘 / 作 汐文社【268 / オ】



16世紀半ばにスペイン人に滅ぼされた古代アンデス文明は、独特で個性的で高度な文明を築いていました。空中都市マチュピチュ、ナスカの地上絵、不思議な形の土器、そしてシパン王の黄金墳墓。しかし、文字を持たなかったためにどんな考えや宗教を持っていたのかなぞの部分もたくさんあります。マチュピチュは、何のために建てられ、いつ頃から作られたのか、解明に挑みます！

## 「カラー版 大地と人を撮る アンデスを歩きつづけて」

高野 潤 / 著 岩波書店 【S296 / タ】

## 「マチュピチュ 天空の聖殿」 高野 潤 / 著 中央公論新社 【S268 / タ】

35年間、毎年ペルーやボリビアに通い続けた写真家の撮影記録です。風と霧に包まれたアンデスの大自然、密林にひっそりと眠るインカの遺跡、人々の暮らしなど、その魅力をたっぷりと紹介しています。美しい写真とともに、『マチュピチュ』が詳しく紹介されていますので、ぜひ読んでみてはいかがでしょうか？！

## 「太陽と黄金とジャングル」 たかし よいち / 著 あかね書房 【915 / タ】

P.141～161に、著者がマチュピチュを訪れたときに感じたことを、太郎くんの手紙を記すかたちで書かれています。まるで旅のお土産話を聞いているよう。ぜひ自分も訪れてみたいという気持ちになります！

## 「なぞ！ふしぎ！世界の遺跡探検 4 アフリカ・アメリカ発見」

岩田 一彦 / 著 理論社 【209 / イ】

P.34～39にマチュピチュの遺跡が写真付きで解説されています。他にも世界各地に残る代表的な遺跡や遺物が、それぞれ大きな写真や絵で分かりやすく紹介されているので、気軽に楽しく読めます。歴史に興味を持つきっかけになるかも！？

【 】内は、請求番号（本の背ラベルの記号）です。